



263

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年5月18日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

台湾から出撃した特攻隊員 あの時の思いは今も

18日(日)＝1、3面



千葉県習志野市に住む中田芳子さん(93)＝写真＝は今も白いマフラーを大事に持っています。80年前

の5月、台湾の飛行場から沖縄に向けて出撃した特攻隊員、高田豊志さん(当時19歳)から手渡されたものです。

中田さんは当時13歳でおてんばな少女。特攻隊員の宿舎によく遊びに行っていました。そこで出会ったのが高田さん。いつも後をついて回るようになり、映画館やボート乗りにも出かけました。

あるとき、「いつか日本に帰ったら、これを僕の家族に渡してほしい」と高田さんから託されたのが特

攻隊員が身にまとう白いマフラーでした。

しばらくして、高田さんが若い女性たちと談笑している場面を見かけ、中田さんは嫉妬してふいっとむくれ、けんか別れしてしまいます。その数日後、高田さんに出撃命令が出たと知らされます。あのけんか別れが今生の別れになってしまった――。

その後、中田さんは日本に引き揚げますが、どのような思いで戦後80年を生きてきたのでしょうか。

党首討論、開催増える？ 18日(日)＝総合面

首相と野党党首が1対1で論戦する国会の「党首討論」が始まってから25年がたちます。近年、開催頻度は低下傾向にありましたが、衆院での与党過半数割れなどを背景に、党首討論の活性化に向けた機運が高まってい

ます。今通常国会では、既に開かれた4月に加え、5、6月にも開催される予定で、どんな議論が交わされるかに注目が集まります。党首討論の歴史を振り返りつつ、背景にある課題を解説します。



立憲民主党・野田佳彦代表(手前左)と党首討論を行う石破茂首相(同右)＝国会内で2025年4月23日、平田明浩撮影



韓国大統領選に出馬した金文洙氏(右)、李在明氏(中央)、李俊錫氏(左)＝いずれもソウル市で福岡静哉撮影

論点 韓国、民主主義の復活なるか

韓国の尹錫悦大統領は昨年12月、「不正選挙があった」などとして「非常戒厳」を宣布し、国会や選挙管理委員会などに軍を派遣しました。憲法裁判所は4月、非常戒厳を違憲と判断し、尹氏は失職

しました。6月3日には大統領選が行われます。対立が深刻化した韓国政治の行方について、崔章集・高麗大名誉教授、李俊漢・仁川大学教授、張善華・高麗大研究教授に聞きました。

21日(水) Ⅱ オピニオン面

特集 ワイド

日本のワンコ、どこから来たの？

19日(月)＝夕刊2面



訪日観光客のにぎわいととも、世界で日本犬＝写真＝の人気の高まっています。純朴な顔立ち、忠実な性格といった魅力は、こわもてで知られるロシアのプーチン大統領を笑顔にさせたことでも

知られます。そんな日本犬のルーツにまつわる発見が、近ごろ相次いでいます。実は日本人も詳しく知らない「和製ワンコ」たち。一体どんな来歴を有するのでしょうか。

毎日新聞社は6月29日、ホスピス財団共催のシンポジウム第3弾「ひとりホスピス・緩和ケア時代」を自分らしく生ききるために「死」を開催します。死生観の著名研究者と、訪問看護のみとりの現場で30年以上伴走支援を続けてきた専門家が、「ひとり」でも豊かに人生最終盤を生きるための具体的方策について語りつくします。参加方法は会場参加とオンラインの2種類。ぜひご参加ください。(長尾真央)



竹橋の窓辺から

編集後記



毎日新聞